

はくさんさん

霊山

第 121 号令和 4 年春号

伊豆市 法住寺 発行

その方は何時も笑顔で朗らか、その場が輝くような感じだった。事情があつて家屋敷を手放し地元を離れたがお詣りは欠かさず、何より笑顔と明るい声は変わらなかつた。その

方の四十九日忌をお勤めし、今は霊山浄土りょうぜんで心の奥底から安らいで居られると思つた。そして直感した、多くの辛さはあつただろうが、あの笑顔そのものも霊山だった。お祖師(日蓮聖人)さまは、後生は霊山に参るにしても今のこの世も霊山だと示されている。こんな様な問題があり苦しんでいる人たちがいるのに。

「寿量の祈り 敬意と感謝」

大自然 ありがとうございます。
社会の皆さん ありがとうございます。
ご先祖さま、家族の皆さん

ありがとうございます。

合掌 合掌 合掌



その数日後、二月下旬の寒い中、足腰が弱り目も弱つてきている方が、息子さんに支えられながら夫の年回忌でお詣りされた。夫は亡くなる五、六年前に倒れ、介護は大変だったが良く尽くし、寿量の塔に永代供養された。寒い中つかまりながらの一步一步、やり繰りしての家計でもご供養する、何と温かなことか。そして直感した、この方の人を想う心そのものが霊山だと。

世の中は様々な事があるにしても、この方のように自分の心の中に霊山を創っていく、それが二人、三人、百人、万人と広がっていくことを示されているように思う。

お祖師さまは、この世には蔵の財(たから)、身の財、心の財があるが心の財が第一と示されている。蔵の財とは財物の豊かさ、身の財とは健康や技能で、心の財は人間性の豊かさ

や人格の輝きなどである。

ろう。どの財も必要だし大切にしていきたいが、心の財が第一と云う。今の世の中、先ずは蔵の財こそ大切、身の財も欲し



本堂裏 2月下旬の白梅



い、心の財はその次だと思つてしまいがち。しかもお祖師さまの鎌倉時代は「鎌倉殿の十三人」で観る通り直ぐに喧嘩が始まり殺し合う、常に緊張して、現代の

ようにノホホンと生きてられなかつたと思う。そんな時代にあつても心の財である。この心の財がなければ霊山に参ることは出来ず、この心の財があつてこそ蔵の財、身の財が活かされ、自分自身の中に霊山を創っていくことになるのだと思う。



二月の下旬でも今年は厳寒、朝勤の本堂を開け放ち霊気を入れ零下になった。南無妙法蓮華経とお唱えする、気持ち善い、気持ちが立つ。お祖師さまは南無妙法蓮華経とお唱えすることで霊山に参ることが出来ると示されている。この気持ち善さが霊山だと思う。

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

日々の用足しに農の駅(野菜等の直売所)に立ち寄ることが多い。春夏秋冬と農業にいそしむ方々のまさに「作品」とも見える見事な野菜に驚かされる。各々に生産者の名前が付いているので「あーっ あの人元気でいるんだな」、「冷たい風の中で頑張っているなあ」とか。ただ会ったことのないご夫妻だけ

う「生き物」と対話しながら育てている様子がそこにはある。農の駅に行つてほっとするのは私だけだろうか。

＊

ところが何回か通つていっているうちに買う側の人の有りように気付くこととなる。全ての人がそうとは言えないが、昨日も自分で手にとってそれを見て棚に返す時、その野菜を投げた人を見かけた。たいていの人が沢山の商品の中から選ぶ時、手に取っていることはしかたなく思う。しかしそれを買わないとなつた時、丁寧に棚に戻すか、あたかもほん投げられる様に戻すかでその「人と成り」も現れる。どれ程に忙しくても気持ちが悪くはなっていない。それは慎まなければ心を掛けてせっかくなかった野菜や一生懸命育てた方に申し訳ないと思うのは私だけだろうか。

ちなみにほん投げた彼女は最終的には沢山の野菜を乱暴に扱いほん投げて、そして山の野菜をマイバックに次々とほん投げて、最後にレジカゴをほん投げて荒々しく店を出て行った。

＊

考え過ぎかもしれないがその仕草を見て

彼女をそうたらしめているもの悲しさがそこには残っていた。だからどうと言うこともないだろうが…。コロナ禍の日常の中でこそ人々が一步譲り合つたり、相手への思いやりを忘れてしまつたりすることが無いようにと願うばかりです。まずは明るい挨拶から始めたいと思います。

本山玉澤日昭尊者700年遠忌

日蓮聖人の六人の高弟(六老僧)筆頭が日昭上人で、三島市玉澤妙法華寺の基を開山されました。

日昭上人と日蓮聖人の出会いには比叡山延暦寺、互いに仏道修行していた時で法華経を信じ広めようとする志を同じくしたのでした。その後日蓮聖人が鎌倉で布教活動を始めるのと日昭上人は直ぐに駆け付け一歳年下ながら日蓮聖人最初のお弟子となります。お弟子とはいえ聖人は「万が一、命を失うことがあれば、日蓮の志を受けついで、日蓮一門と縁ある人を導かれよ」と、日昭上人を信頼し敬い頼りとしたのです。日蓮聖人は多くの法難にあいますが、日昭上人はつねに裏方にまわり鎌倉にあって聖人を補佐し弟子信徒を



境内の福寿草 花の名を聞くだけでワクワク



まとめ導いたのです。

日蓮聖人

は形見分けで、永年所持し書き込みも大切な「注法華経」を日昭上人に与え、その二年

前には宗門最大のお曼荼羅「伝法本尊」を授けています。この二点をはじめ「撰時抄」等四点の重要文化財(国指定)が玉澤妙法華寺に現在も大切に所蔵されています。

日昭上人は百三歳の高齢で入寂、今年三月二十六日ご命日に七百年遠忌が本山で行われます。住職は総務、副住職は式衆として報恩感謝の気持ちを捧げてまいります。

役員作業

2月13日(日) 役員さんが第2墓地ステップ取り付けや草刈り用踏み道づくりを行って下さいました。当日は寒い中で小雨が降

ってきたのですが、皆さん意気を合わせて手際良く作業して下さいました。

境内作業

春の作業は小川の皆さんのご奉仕で、電線にかかる枝払いや山門周辺の整備を行って下さいました。

皆さんのおかげで境内周辺がきれいになっていて感謝、感謝です。だんだん高齢化したり、勤務の関係で作業に出られない方も出てきますが、「出来る人でやるから良いよ」と声を掛け合って、地域づくりとしても続けてまいります。

尚、昨年お願いしました「作業名簿」を備えることができました。ご協力ありがとうございました。

今年の作業予定

「7月」西
「9月」元村2、3班 「12月」清水1班

役員改選

3月末で世話人さんの改選となります。任期は3年、各地区で選出し3月中旬までにお寺に連絡して下さい。尚、引き続き役員をお勤め頂くようお願いしています。

尚、総代さんは引き続きお勤め頂き、欠員

が出た場合は住職がお願いし、新役員会にて承認して頂きます。

・新役員会 4月9日(土)午後3時

春のお彼岸

3月21日(祝・月) 午後2時

コロナの状況はありますが、一般の皆さんもご参加ください。

チエロを聴く会

6月12日(日)十二日講

午後2時お題目 2時30分演奏

檀家さんの塩田研士さんが会社勤めされながらチエロを演奏しています。そこで今回お願いし、都合によっては三人でのトリオ演奏になるかもしれません。当日は十二日講ですが男性、一般の皆さんもご参加ください。



「星祭は一日にしてならず。そこには皆さんが主役の三六五日のドラマがあつてこそ!」。毎年、皆さんの祈願札を書く時、願いと想いを筆に載せながら思う事です。今年もコロナ禍といえども皆さんのご協力を頂

き無事に星祭が出来ましたこと御礼申し上げます。

本堂の正面で手を合わせるとそこにはいつも変わらない魂の故郷、仏天の世界があります。しかし振り返るとコロナ禍や様々なことがある娑婆世界。そんな目まぐるしい世界に身を置くからこそ、本堂、お仏壇の前、仏天の前で一度立止り、決して変わらない・いつも同じ世界に向かい合う。そんな世界が、何処か遠くではなく自分の中にある。決して変わらない、ぶれない、仏さまの世界・心が皆さんの中にあることを知っておいて下さい。



今はいろいろなことが便利になりましたが、人間関係は今も昔も変わらないもの。人

御志納金「二月〜二月」

川崎市	田中	洋江	殿	夫君葬儀
清水	石原	格洋	殿	尊父葬儀
西	飯田	幸雄	殿	尊母葬儀
清水	小塚	一哉	殿	尊祖母葬儀
小川	鈴木	佳和	殿	尊母葬儀
清水市	三田	義行	殿	尊母葬儀
伊豆の国市	吉田	次男	殿	施餓鬼
伊豆の国市	松本	まゆみ	殿	法号授与

星祭「コロナ禍の中、5回に分けて」祈禱、皆さんのおかげで分散できました。



との繋がりを縁といたしますが、必ずしもその関係が上手くいくばかりではありません。四苦八苦の一つに「怨憎会苦」があり

余裕を持って、絡まっている部分を上から下から横からと、見方、とらえ方を変えてみる。時には相手を想ってみる。すると心の糸の絡まりは切らずとも上手に解けるもの。心の突っかかりも同じ。その心の糸がほどけた気持ち、突っかかりが取れる心地を「ほどける、ほどける、仏る、仏の境地」というのでしよう。



日蓮聖人のお手紙には「法華経の行者は冬の如し。冬は必ず春となる！冬が秋に戻ったなんてことは一度も知りませんよ」とあります。そのメッセージは今まさに時空を超え私たちの心に響いてきます。法華経を信じお題目を唱える。そのお題目の光明を浴びるといふ事は、どんなことがあるうとも大自然の如く雪や氷が解け必ず春が来る。だから「大丈夫！」と言ってくださっている様に感じます。皆さんの心の糸の絡まりや、突っかかりが「ほどけ、ホトケる」ように。安心や穏やかな心、仏さまの境地が充満します様、春を感じ始めた山中より祈っております。

ます。これは会いたくない人に会わなければならぬ苦しみ。この苦しみはある日突然生まれるのではありません。心の糸がちょっと絡まることから始まるのです。その時はどうってことは無いと思いつつも、放っておくとだんだんその糸の絡まりが大きくなり、もうどうしようもなく苦しくなるのでしよう。その苦しみを頑張って我慢することもある。しかし放っていく内に、その糸の絡まりは解けなくなり糸を切らないと解決しないところまでいってしまふ。そうかと思えば、